

未来をつなぐ



筑波大学附属病院水戸地域医療教育センター
茨城県厚生連 総合病院 水戸協同病院



すまいるみと

内分泌代謝・糖尿病内科の紹介

— 新しい糖尿病診療チームと糖尿病教室について —

内分泌代謝・糖尿病内科長
筑波大学教授 曾根 博仁



当科では、糖尿病、メタボリックシンドローム、脂質異常症、高血圧、肥満などの生活習慣病と、甲状腺、副腎、脳下垂体などのホルモンの病気を担当し、筑波大学のセンターとして最新の治療を提供しております。特に糖尿病については、医師と共に看護師・管理栄養士・薬剤師・臨床検査技師などによる専門診療チームにより、地域の開業の先生方とも協力して診療をすすめておりますので、精密検査や専門的治療も含めて相談ください。

特に糖尿病の患者さんは、ものすごい勢いで増え続けており、中年以降の日本人の3人に1人に達すると言われております。糖尿病は、血糖値が上がることによって全身の血管がやられ、様々な合併症を引き起こす病気です。日本では、糖尿病のために、毎年3000人が新たに失明し、毎年1万5千人が新たに人工腎臓透析を開始されるという深刻な事態になっています。当院では、このような合併症を防ぐために早期から手厚く診療する体制を整えております。

糖尿病は知らないうちに起こり、そして進行していきます。恐ろしいのは、自覚症状もないままに多くの「合併症」が起こってくることです。たとえば、目の網膜がやられて視力が低下したりや腎臓がやられて手足のむくみが生じたりしてからは、元の状態に戻すことは困難です。糖尿病は初期に発見して、専門家チームのアドバイスを受けながら食事療法や運動療法を十分にを行い、合併症を起ささないようにコントロールしていくことが最も重要です。当院の糖尿病診療チームでは薬やインスリン注射だけに頼らず、食事や運動療法、禁煙などの生活習慣是正を重視することにより、糖尿病を始めとする生活習慣病の悪化を防ぐようにしています。

新しい糖尿病診療体制について

- (1) 糖尿病専門医が筑波大学から赴任しており、月曜から土曜まで毎日専門家による外来診療が行われています。
- (2) 医師だけでなく、糖尿病療養指導士(CDEJ)の資格を有する管理栄養士、看護師、薬剤師、臨床検査技師など、糖尿病に詳しい多くの専門スタッフが指導する糖尿病教室もほぼ毎日開かれています。糖尿病教育・コントロール入院プログラムも新たにスタートしました。

まず健診をうけて糖尿病を早期発見すること、そしてもし見つかったら、決して放っておかないで通院してコントロールすることが重要です。それにより、当院の糖尿病診療チームのスタッフ一同、糖尿病の合併症に苦しむ人が少しでも減るように願ってやみません。



医師 渋谷 正俊

今年から当院内分泌代謝・糖尿病内科勤務となりました渋谷正俊と申します。外来・病棟での診療・糖尿病教室での講義を担当しています。

水戸に来てから半年経ちますが、糖尿病の患者さんの多さに驚いています。他の手術目的で入院の予定ははずが、手術前の採血で糖尿病が見つかり、まずは手術の前に糖尿病コントロールのため内科入院となる患者さんも珍しくあります。糖尿病は自覚症状に乏しいため、検診で指摘されてもなかなか病院を受診しない、通院を止めてしまう方もいます。し

かし合併症としての症状が出る頃には非常に進行していることが多く、通院も多科にわたることになり、その効果も十分に見込めない可能性もあります。したがって早期発見・早期治療が大切です。

当院では、糖尿病に関しての知識を深め、療養意欲を高めるために医師・看護師・薬剤師・栄養士・検査技師等による糖尿病教室を開いております。現在当院に通院中または入院中の患者さん以外でも、糖尿病に関心のある方であれば、どなたでも参加できます。

また、当院には循環器内科、腎臓内科、眼科、整形外科専門の先生方もおり、糖尿病合併症の精査・治療を行うには非常に恵まれた環境です。土曜日(午前)受診も可能ですので、平日受診が難しい方にも受診する機会が開かれています。

検診等で糖尿病を指摘された方はもちろんのこと、糖尿病に関心のある方々の受診・受講をお勧めいたします。



医師 齋藤 和美

筑波大学の糖尿病内科の出身で、今年7月から、週1回来を担当させて頂いています。糖尿病は、長くおつきあいしなければならぬ病気の一つです。糖尿病の診察を通じて、糖尿病と患者さんやご家族のおつきあいが、元気で長く続けられるものになるお手伝いができたらと願っています。

スタッフ紹介



看護主任 鈴木 幸子

私たちは看護師は、糖尿病の運動療法、日常生活の自己管理（病気の日の対応・足のケア・歯周病お口の健康・禁煙のメリットなど）についてお話をさせていただきます。教室では、患者さんが一病息災で健康的な生活が送れるように、その具体的な方法や気持ちの持ち方なども患者さんと一緒に考えていきたいと思っています。そして糖尿病を持つ患者さんとその家族をずっと応援していきたいと考えています。



栄養部長 菅谷 富士子

糖尿病や生活習慣病の食事療法と聞くと身構えてしまう方もいらっしゃると思いますが、特別な食事をすることではありません。ご自身の食生活を振り返り、ちょっと乱れてしまった食習慣を改善し、健康的な食事をすることが治療になります。この食事療法は糖尿病の方だけでなく、どの方にとっても健康維持のための食事として最適です。どうぞお気軽にご参加ください。



薬剤部長 伊藤 陽子

6月から曾根先生を中心に糖尿病教室が始まりました。皆さんとても熱心に参加していただいております。皆さんとともに勉強していただくの思いを新たにしました。糖尿病は患者さん本人が一番の主治医であり、スタッフはそのお手伝いであると思っています。患者さんにわかりやすく、適切な説明を心がけていきます。何回でも参加し、日々の疑問を解消してください。



検査部長 坂本 光枝

血液や尿などの検査結果の意義や目標値、動脈硬化の成り立ちについてお話をしています。少しでも検査の事を理解し、糖尿病を持つ患者さんの自己管理の手助けになればと思います。ふだん疑問に思っていることや、不安を持っている事など、率直に質問していただけるような教室になればと思っています。



糖尿病教室の様子



ほぼ毎日開かれていたる糖尿病教室には多くの方や御家族が参加されています。ライフスタイルや病状など、個別に違う患者さん一人ひとりに対応した食事指導も行っています。

糖尿病療養カンファレンスの様子



毎週行われる糖尿病療養カンファレンスでは、入院患者さんの治療方針について、医師、看護師、臨床検査技師、薬剤師、管理栄養士らみんなで詳しく討議します。

NST (Nutrition Support Team; 栄養サポートチーム) ミーティングの様子



月に1度開かれるNSTミーティングでは、他職種のスタッフが集まり、患者さんの栄養管理や病院に導入する濃厚流動食などについて、それぞれの専門的意見を取り入れながらみんなで話し合います。

コラム 研究員に聞いてみよう！最新の科学データに基づいた健康づくりQ&A

今回から始まるこのコラムでは、当院の研究室から発表された最新の科学データを研究員にわかりやすく解説してもらいます。

Q. 来年50歳の節目を迎えます。ここ数年全く運動をしていないので、体力の衰えを感じるようになりました。運動を始めようと思っていますが、一体どの程度の体力をつければ健康に効果がありますか。

A. 最近の研究で、50歳の時に速足での歩行が無理なくできる程度の体力があれば、心筋梗塞などで死亡するリスク（危険性）が低くなることが明らかになっています。これをひとつの基準と考えてみてはいかがでしょうか。

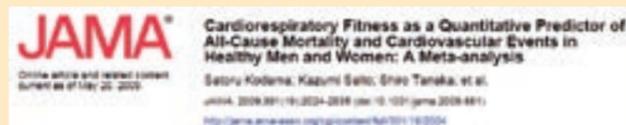
Q. 速足とは、どれくらいの速度ですか。

A. 時速6.4km程度ですので、20mを約11秒で歩くことができれば十分です。また、速足でなくても、これと同程度の運動（身体活動の単位で10.9メッツ）が無理なくできる体力であれば、リスク（危険性）は低いと言えます。

Q. 今から始めても体力はつくでしょうか・・・？

A. 運動を継続すれば必ず体力はつきます。今からでも大丈夫ですので、楽しく運動を続けていきましょう！

この研究結果は、世界的に有名な医学雑誌である米医師会誌（JAMA）で発表されました。



2009年5月21日（毎日新聞）にも掲載されました。



児玉 暁 医師 (当研究室研究員)

内分泌代謝・糖尿病内科
(生活習慣病) 研究室

http://square.unin.ac.jp/sonoken/index.html

本院に設置されている「筑波大学水戸地域医療教育センター内分泌代謝・糖尿病内科研究室」は、曾根教授以下計十九名が在籍し、生活習慣病・代謝内分泌疾患の予防と治療に役立つ科学的データの確立を目標とした研究にあたっています。

本研究室の前身は、2006年、お茶の水女子大学へ曾根教授が赴任されたのを機に、生活習慣病医学研究室として創設されたものです。それ以来、短期間に日本生活習慣病学会会長賞、日本末病システム学会学術総会優秀演題賞、第二十一回内科学会奨励賞などの受賞者を輩出してあります。また、右コラムを担当した児玉研究者はわが国トップクラスの優れた若手研究者として日本学術振興会特別研究員にも採用されておりあります。

2009年からは、大学の研究力と最新線医療現場のフィールドが融合した新しい健康医学研究室として再スタートし、ここ水戸の地から、人々の健康長寿に貢献する生活習慣病の予防・治療法の確立と優れた医学・医療研究者の輩出に全力を挙げて取り組んでいます。

ニューオリンズで開かれたアメリカ糖尿病学会で最新の研究成果について発表しました



■ 糖尿病教室11月予定表

担当者	医師	薬剤師	検査技師	看護師	栄養士	栄養士				
日	月	火	水	木	金	土				
1	糖尿病とは? 曾根先生	2	血糖コントロールの指標	4	運動療法 フットケア	5	6	食事療法の基礎	7	
8	糖尿病の合併症 渋谷先生	9	低血糖とは?	10	糖尿病の検査	11	12	日常生活の注意	13	14
15	糖尿病とは? 曾根先生 11時から12時	16	インスリンと薬 15時40分から	17	血糖コントロールの指標 15時40分から	18	19	運動療法 フットケア	20	21
22		23	低血糖とは?	24	糖尿病の検査	25	26	日常生活の注意	27	28
29	糖尿病の合併症 渋谷先生	30								

■ 糖尿病教室12月予定表

担当者	医師	薬剤師	検査技師	看護師	栄養士	栄養士	
日	月	火	水	木	金	土	
		1	2	3	4	5	
6	糖尿病とは? 曾根先生	7	8	9	10	11	12
13	糖尿病の合併症 渋谷先生	14	15	16	17	18	19
20	糖尿病とは? 曾根先生	21	22	23	24	25	26
27		28	29	30	31		

■時間：月曜日から木曜日 午後3時から／金曜日 午前10時から／土曜日 午前9時30分から
■場所：中会議室（健康管理センター隣り）

- 医師より……………糖尿病とはどのような病気か、合併症とその対策 など
- 薬剤師より……………血糖を下げる薬とインスリン、低血糖とその対策 など
- 臨床検査技師より…糖尿病に必要な様々な検査、特に血糖コントロールの検査指標 など
- 看護師より……………日常生活の注意、運動療法と足のケア など
- 管理栄養士より……………食事療法の基礎と実際



平日はほぼ毎日糖尿病教室を開催しています。どなたでも気軽にご参加いただけます。最新版はいつでも当院ホームページからダウンロードできます。

茨城県医師会勤務医部会
学術奨励賞受賞

平成21年10月18日に茨城県医師会講堂において第31回茨城県医学会総会が行われました。ここで筑波大学附属病院水戸地域医療教育センター准教授、水戸協同病院脳神経外科部長である柴田靖医師が「SPEC TとHMR Sによる脳腫瘍の悪性度診断の研究」のタイトルで茨城県医師会勤務医部会学術奨励賞を受賞しました。この賞は茨城県内に5年以上勤務し、優れた学術研究、業績を上げた45歳以下の勤務医に贈られるものです。当日は研究内容についての発表も行われました。柴田准教授は筑波大学講師時代に筑波大学附属病院において主に脳腫瘍に対する核医学と磁気共鳴画像(MR)を使用した画像診断の研究を行い、多くの学術発表を行ってきました。今回の受賞はこの業績が認められたものです。柴田准教授は現在新設された筑波大学附属病院水戸地域医療教育センター／水戸協同病院脳神経外科において各種画像診断をはじめ地域医療、救急医療体制の構築に邁進しています。地域市民が安全で高度な医療が受けられるように、また研修医、医学生、技師、看護師などが十分な勉強と研究ができるように筑波大学本院に負けないような高度な医療、研究を目指しています。職員、地域の方々と協力してレベルの高い医療を実践していきますので、よろしくお願いたします。



日本呼吸器学会専門医による禁煙外来の開設に向けて



呼吸器内科 科長
籠橋 克紀

果として、皮膚の老化、心血管病変の発症、胎児の発育不良の原因になります。

喫煙をすることによる発癌の危険性は、非喫煙者と比較して、喉頭癌32.5倍、肺癌4.5倍、口腔・咽頭癌3.0倍、食道癌2.2倍であると報告されています。その他、喫煙により心疾患や脳血管障害などを引き起こす危険性も高くなります。海外の報告によると、喫煙者の寿命は、非喫煙者の寿命と比較すると10年間短くなり、35歳の喫煙者が喫煙を続けた場合、70歳まで生きられる可能性は58%（非喫煙者は81%）であるとされています。

そして喫煙は、喫煙者の最も身近にいる大切な家族の健康にも影響を与えます。夫が1日20本の喫煙する場合、夫が喫煙しない場合と比較して、妻の肺癌死亡率は1.9倍になるとされています。

それでは禁煙をした場合には、どのようなメリットがあげられるのでしょうか。

まずは、前記のように喫煙は健康に対して悪影響を及ぼすため、禁煙することが最も健康への悪影響を減らせることが最大のメリットであると考えられます。禁煙することにより、数週間程度で、呼吸機能の回復傾向がみられます。喫煙者の男性が喫煙を継続した場合、肺癌の危険性は非喫煙者の4.5倍になりますが、10年間以上禁煙を継続することで肺癌になる危険性が1.4倍まで低下するという報告があります。禁煙を継続することで様々な疾患になる危険性が非喫煙者に近づいてくるとされています。

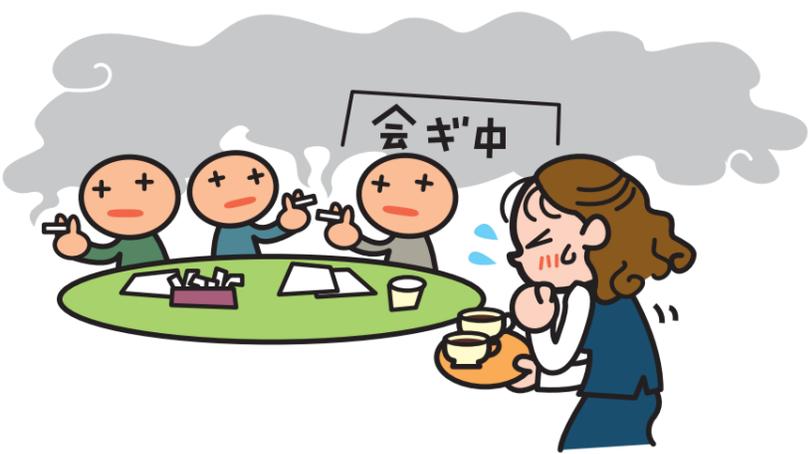
その他、禁煙により、髪や洋服に臭いがつかなくなり、喫煙しない方に対して不快感を与えなくなり、食べ物がおいしく感じられるようになります。また、タバコの火の不始末による火事の危険性がなくなります。さらに、経済的なメリットも発生します。タバコの代金を全て貯金した場合、

少しずつですが、確実に貯金が貯まります。具体的には、1日1箱喫煙している場合、1箱300円と仮定すれば、1ヶ月に9000円、1年間に約11万円の貯金ができます。10年間では、100万円以上の貯金ができます。さらに、喫煙によるカーテンや壁紙の汚れ、家の価値の低下などによる損失もなくなるため、先程の金額以上の経済的なメリットがあります。違った観点から見ると、これだけの金額を払って、健康を害しているとの見方もできると思います。

このように禁煙には様々なメリットがあるにも関わらず、禁煙ができない理由は、ニコチンの影響が大きいと考えられます。禁煙を成功させるためには、タバコの本数を減らすというのはいままでの間隔が長くなるため、イライラや落ち着かないといったニコチン切れ症状がみられる時間が長くなり、次の一本が今までよりおいしく感じてしまいがちです。このため、タバコの本数を徐々に減らす方法は失敗するケースが多く、記念日のタバコがなくなったときなどのタイミングで喫煙を完全に中止する方法が成功するケースが多いとされています。また最近では、ニコチン依存症に対し、チャンピックス、ニコチン依存症に対し、チャンピックス、ニコチン依存症に対し、チャンピックスなどの禁煙を補助する薬剤も登場しており、禁煙補助薬を使用した場合、使用しない場合と比較し、禁煙の成功率が明らかに高くなるとされています。ただし禁煙補助薬の処方には、認定施設基準を満たす一部の病院やクリニックにおいてのみ健康保険の適応が認められております。

当院では、日本呼吸器学会専門医による禁煙外来を毎週火曜日の午後完全予約制で開設いたしました。12週間のプログラムで、5回の通院治療を行います。当院は、

認定施設基準を満たしており、禁煙に対する治療をすべて健康保険適応の範囲内で行うことができます。現在、禁煙をしたいと考えている方の中には、ニコチン切れの症状に強い不安を抱き躊躇されている方や、これまで何度も禁煙にチャレンジして失敗を繰り返したため禁煙は成功しないと完全に諦めてしまっている方も多数いらっしゃることであると思います。当院の禁煙外来では、そういった方々の不安を取り除きながら、禁煙補助薬を使用して、禁煙のお手伝いをさせていただきます。今回の文章に目を通していただき、禁煙に少しでも興味をお持ちいただけただけの方は、当院の、総合受付までお問い合わせ下さい。喫煙者の皆さん、禁煙を成功させ、健康を取り戻しましょう。



就職説明会を開催

就職活動委員会

今回は京成百貨店バンケットルームにおいて就職説明会を開催しました。学生・就職希望者・保護者、学生の就職説明の参考にと学校の教員の方など多数の方の参加がありました。

説明会の冒頭、平野院長から筑波大学附属病院水戸地域医療教育センターの概要、地域の医療、教育の充実の貢献や、大学の教育機関であるため看護師においてもスキルアップできる唯一の病院との説明がありました。

渡辺重行水戸地域医療教育センター長からは地域医療の質の向上、地域医療機関の連携強化、看護職は大学の教育機関の教官指導による博士課程の取得・院内・外医療職員対象のレクチャー等に非常にやりがいのある病院との説明がありました。

看護部は面接の中での労働条件、教育内容・育児をしながらの勤務との両立、奨学金を受けながらの勤務条件など様々な質問に対して個別にあわせた対応と看護師が実践を踏まえた部署紹介を担当しました。

会場の一角にあった看護師募集のパンフレットや病院の機関紙を熱心に見入り持ち帰る姿や、知人に紹介しますといったくださる方、病院を応援して下さる地域の皆様の暖かい心の触れることができました。

就職活動を通じ医療に関わる職業人としていつでも、どこでも、誰にでも質の高い安全・安心の医療の提供に取り組み、信頼され愛される病院でありたいと思います。



タバコと薬の話



最近、病院のような健康に関する公共の場所に止まらず、公共交通機関でも禁煙の環境が広がっています。タバコの煙には約200種類もの毒物が含まれていると言われます。あらゆる癌に成り易くなり、高血圧や心臓・脳・肺の病気、糖尿病、コレステロールの病気など様々な病気へとつながることは有名です。2007年に厚生労働省が3年半短くなる事が明らかになりました。英国での報告では寿命短縮はさらに大きく、10年の差があるとされています。そんなことは遠い先の話だろうって言う方もいますが、スモーカーフェイスは多少なりとも現れてきます。しわが多くなり、頬がこけたり、灰色がかった肌の色となり10歳老けて見られるなんてことにもなりかねません。タバコの煙には喫煙者が直接吸う「主

流煙」とタバコの先端から立ち昇る「副流煙」があり、良く知られるニコチンやタールは「副流煙」の方が「主流煙」の約3倍含まれると言われています。これは母親の喫煙本数が多くなると子供が喘息になる可能性が高くなる、喫煙者と同居している家族の認知症発生率が約30%増加するなどの報告にも現れています。喫煙者には「自分の体なんだから自分の勝手」では済まされない事実があるのです。「今更止めても」とよく耳にしますが、禁煙により確実に死亡の危険を低くする報告もすっかりされています。是非、禁煙を考えていただければと思います。現在「禁煙治療」は病院で行うもの、町の薬局で禁煙の薬を購入する方法があります。禁煙の薬はテレビでお馴染みの「貼り薬」と「ガム」タイプがあります。また、「飲み薬」のタイプもあります

が、これは病院でしか手に入れられません。それぞれに長所短所があるのでよく相談の上、治療をして下さい。禁煙をする場合には今お使いの薬にも注意が必要です。お酒と薬の飲み合わせは？よく相談を受けますが、タバコと薬にも相性があります。理由はいくつかありますがタバコを吸う事により、薬の効果が強くなったり弱くなったりします。言い換えれば禁煙する場合も効果が変わる可能性があるので注意が必要なのです。禁煙する場合にも主治医に一言報告しておく方が良いですね。代表的なタバコと関係の深い薬を記載しておきました。参考にして下さい。

- 喘息の薬の一種（テオドールユニフィル テオロングなど）
- 精神系の薬の一種（トリプタノールアナフラニールデプロメールなど）
- 不整脈の薬の一種（メキシチールなど）
- 血圧などの薬の一種（インデラルラシックスなど）
- インスリン

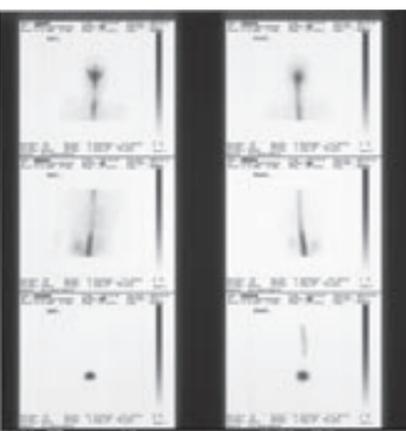
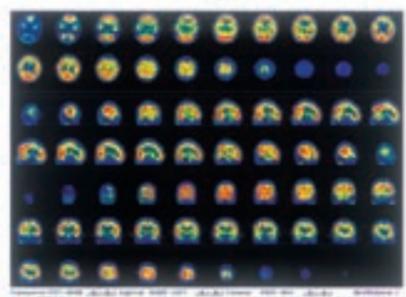
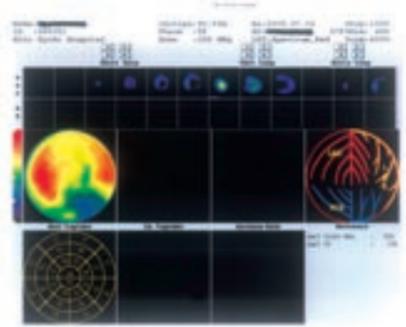
薬剤部 藤田 真澄

新しい核医学検査について

1 核医学検査とは
核医学検査、あるいは核医学検査によって得られる診断用画像のことを、一般的にシンチグラフィと言います。

また、放射線を放出しながら壊変する性質のある元素を放射性同位元素（RI）と言います。核医学診療に使用される非密封の放射性同位元素およびその標識化合物のことを放射性医薬品と言います。

投与された放射性医薬品の体内分布や量およびそれらの時間的変化から目的とする臓器・組織の生体機能ならびに腫瘍の活動性や広がりやガンマカメラあるいはSPECT装置で撮像して診断します。



2 当院での新しい核医学検査紹介
・心臓の核医学検査
やMRIによる形態画像では得られにくい臓器・組織の生理学的機能情報や代謝情報を画像に表すことができる他、定量性にも優れた特徴を持つため、治療方針の決定、治療効果の判定や予後予測に重要な検査方法となっております。

心筋血流状態を画像化する心筋血流シンチを行っております。
・脳の核医学検査
脳血流の分布画像が得られるおよび定量解析が可能となる脳血流シンチを行っております。
脳脊髄液の動向を測定するための脳槽シンチを行っております。

放射線部 高村 秀彰

私の趣味

つまらない話で済みません、看護学校を卒業した時に、これからは勉強と東京から何故か茨城？当初就職

のための面接で、ある病院の看護部長に水戸の看護は10年遅れていると言われました。水戸協同病院に就職し、確かにスタッフの意欲は？しかし向上したいという思いが自分にはあり、関心のある県外の研修にも参加していました。そこでは自分だけでなく遠方から（例えば北海道から東京へなど）研修に来ている方も多く刺激を受け、向上心を持つナースは沢山いる事を実感しました。

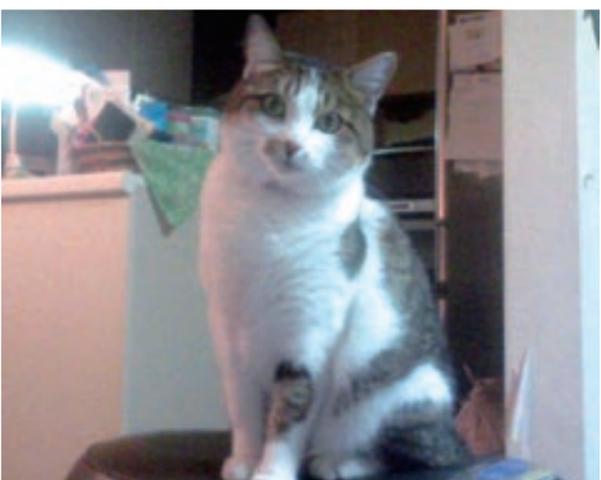
私が好きな研修は看護協会図書出版会の主催するセミナーとメディカ出版の研修で全国的に有名な講師が多く、メディカ出版主催は大阪が本社のせいか？関西の講師が多く話しが上手く楽しい講義で飽きず満足します。研修内容が「つまらないとき」は病院命令の研修ではないので遠方でも途中で帰ります、気儘に。今までは北海道、南は九州の福岡や佐賀、四国の土佐など1人で出掛けます。ただ研修と言うのではなく、気分転換・リフレッシュの目的も兼ね憂き世を忘れる手段で自分の知らない土地の人達を知るという目的も、いつの間にか趣味になりました。知らない土地の研修に行くためには、交通手段や宿泊するホテルを検索する必要があります、これも楽しみで研修場所に近いホテルをジャランネットで調べますが、宿泊費は朝食付きで¥4000〜5000で探すと結構あるのです、満足できる所が！たまにはリッチに思うときは、グリーン席やフ

憩いの時

憩いの時
整形外科病棟で勤務して早2年が過ぎました。今年4月から脳神経外科が加わり、毎日あたたかい日々を送っています。私たちの病棟は、プライマリ・

ナースングを取り入れており、勤務開始前に受け持ち患者様へ挨拶と一日のスケジュールを説明します。入退院と手術がほぼ毎日、鳴り止まないナースコールの対応に、笑顔の言葉を忘れないようにと自分自身に問いかけています。そんな私の癒しは我が家の2代目、猫のナナです。小さな尻尾とピンク色の肉球がふんわり柔らかく触っていると疲れた心もリフレッシュしてきます。お気に入りにはネズミのオモチャ、ちよっぴりじやれて噛み付いたり、甘えた声でニャ〜と鳴いたり、最近では夏の暑さにダウン気味なのか、ご主人への服従なのか、お腹をみせて大の字でお昼寝。ゴロゴロと喉を鳴らしながら一緒に布団で寝ている姿にいつも癒され、明日も頑張ろうという気持ちになります。

3東病棟 上妻 里子



3東病棟 佐藤 美智子

井の中の蛙になっていませんか？

循環器内科医師
秋山 大樹

総合診療科医師
相澤 哲史

総合診療科医師
平谷 太吾

総合診療科医師
儘田 直美

整形外科医師
大西 信三

整形外科医師
塚越 祐太

総合診療科医師
太田 良雄

総合診療科医師
阪本 直也



■ 整形外科外来

当院整形外科は一般的な腰痛、肩こり、膝の痛みなどの主症状から椎間板ヘルニア、頸椎症、変形性膝関節症などの疾患を診断・保存的、外科的に治療を行っている他、午後の専門外来として、スポーツ選手を対象にしたスポーツ外来があり、外傷治療・復帰までのリハビリ・野球選手の投球指導・精神的なコンディショニング改善までの指導を行い、好評です。スタッフ一同地域医療に貢献できるよう努力してまいりますので、今後ともよろしくお願ひします。

整形外科 馬見塚 尚孝

■ 腎センター

当院では糖尿病や慢性糸球体腎炎、腎硬化症、嚢胞腎などが原因で慢性腎不全になった方に透析を行っています。ベッド数は30床で、日曜日以外の週2回か3回、3時間から5時間の透析を行っています。

現在60名の患者様が当腎センターを利用されていますが、筑波大学附属病院水戸地域医療教育センター水戸協同病院になってからは、手術や検査・治療目的で入院期間中のみ、透析を行う紹介患者様が増えました。

スタッフは、医師3名、看護師8名、臨床工学士3名、看護助手1名が担当しています。穿刺や回収、透析中の状態変化と緊張する場面はありますが、臨床工学士と一緒に和気あいあいと勤務しています。

当施設を利用していただいている患者様の満足度を高めながら、短期利用の患者様にも安心して透析治療を受けてもらえるようにスタッフ一同、努力しています。

腎センター 大久保 恭子

■ 臨床検査部

当院の臨床検査部は生理検査部門に4名、検体検査部門に6名、細菌検査部門に1名、健診部門に1名のパートを含む計13名で行っています。

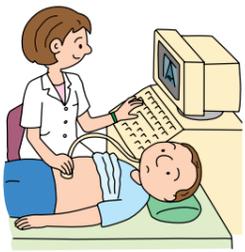
今年10年ぶりに新人が入り我が検査室も少し若返りました。技師部長のもとに一元化され、お互い連携をとりながら一体となって、検査業務を行っています。

検査部の使命は確かな臨床検査データを提供し本院の医療を支えることです。そして、高い精度、正確性、迅速な報告です。

限られた人数で日常の業務を処理するために苦しい業務を作らないよう、ローテーションに工夫をし、すべての業務をこなせる技師でありながら、一つ得意分野を持つ技師でありたいと思っています。

検査部 鈴木 美智子

■ 生理検査室



生理機能検査室は、心電図や脳波検査のように体に電極をつけて行う検査や、息を吸ったり吐いたりしてもらって呼吸機能検査、プローブを走査する事で情報を得る超音波検査など、直接患者さまと接して検査を行う部門です。特に当院の生理検査室では超音波検査が充実しており、一般的な腹部、心臓から、血管系、体表組織、臓器など多種多様な部位に対応して依頼を受けています。担当者は超音波医学会で超音波検査士の認定を受けたスタッフが対応しております。臨床側のニーズに応えられるよう努力しています。

現在4人のスタッフ（内3人の超音波検査士）で業務を受け持っていますが、筑波大学のセンター病院になってから、依頼件数の増加、新規の検査項目などで忙しい毎日を送っています。

検査部 安蔵 克典

■ 2階東病棟

平成21年6月より、内科主に循環器科・呼吸器科及びICU病棟として、2東病棟が生まれ変わりました。

ICUには、内科だけでなく、交通外傷外科系の緊急入院もあります。

循環器においては、心臓カテーテル検査と経皮的血管形成術が開始され、2ヶ月で約80例が実施されました。

看護師は、各病棟からの移動及び他病院からの入職で13名からスタートしました。知識の統一を図るため、日々疾患・治療・検査・医療機器などについての勉強会を医師、コメディカルの協力を得て行い、多様な疾患に対応できるように努力しております。

スタッフの接遇の向上にも努めており、患者さまからも感謝の言葉をいただき看護の励みとなっています。今後も患者様に安心して治療が受けられるように努めて参りたいと思っておりますので、どうぞ宜しくお願い致します。

2東病棟 佐々木 良枝

■ 整形外科・脳神経外科病棟

整形外科では、小児から成人まで幅広い疾患を扱っております。特徴的には、スポーツ外来を通して入院するスポーツ選手が多く手術後のリハビリテーションも充実していることです。また脊椎の手術では、術中に神経機能をモニターリングすることで神経の損傷を確認しながら安全に手術を進めています。その他、人工関節の手術も多くおこない、高齢の骨折や外傷は、24時間体制で受け入れております。

脳神経外科は、今年4月からオープンし救急患者の受け入れも増え救急患者の緊急開頭術も行い軌道に乗っております。

た重症脳挫傷の患者の受け入れもできる準備が整ってきました。

整形外科・脳神経外科ともに救急の患者さんが多いなどの特徴を考慮し常に万全の体制で患者さんが迎えられるよう努力しているところですのでどうぞ宜しくお願い致します。

3棟病棟 川又 光子

■ こんにちは！栄養部です

栄養部は、病気の治療、回復、合併症の予防を目的に、栄養面から患者様をサポートする部門です。食事の種類は290種からあり、医師の指示の基、病態、年齢、性別、生活強度等を配慮し、患者様個々に対応した栄養管理を行なっています。

また、衛生面はもちろんのこと、事故食料品や異物混入食品問題に対応すべく、食料品に関する指針に準じ調理を行なっています。

栄養指導においては、毎日（平日）個別指導を受け付けています。今年6月から糖尿病教室（集団指導）を始め、生活習慣病教育チームとして積極的に食生活改善を進めています。

栄養部 菅谷 富士子

